

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部 グループホーム 3階		
所在地	佐世保市城山町3番21号		
自己評価作成日	令和5年6月13日	外部評価結果確定日	令和5年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosoCd=4270202387-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和5年8月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員自ら食事のメニューを考え、手作りで提供している。毎朝のバイタル測定を実地し、体調の変化に気づけるようにしている。健康維持のためレクリエーションに体操や足の運動をとり入れている。エアロバイクでの運動・立位や歩行の練習を促している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染拡大の時期も含めてほぼ毎月外出したり外食したりして、入居者の気分転換を図っていた。また、外出の際は緻密な計画に基づき実施されている。勤続年数の長い職員が比較的多い。入居者様支援に関してディスカッションする場が確保されていて、上長もそれをきちんと受け入れてくれて判断を出してくれるとのことで、風通しのいい関係性が形成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱えている。理念に沿ったサービスが提供できるよう心がけている。	ハナレイの理念のうち、「穏やかで豊かなその人らしい生活を支援する」という文言を具現化するため重点的に取り組んでいる。今できることをその方のペースでゆっくり伴走したいとのことであった。またハナレイでは「その人らしさ」とは入居者様の個性であり、これを受容することが重要と捉えている。歩んできたその方の歴史、性格、好きなこと、嫌なこと、全てを理解して受入れていくために、情報収集と共有、そして受容的な姿勢で寄り添う支援を更に目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店舗に食材を注文し、配達をお願いしている。外出も季節に応じて利用者と一緒に考えている。	ハナレイは母体の医療法人共々古くから、地域住民の健康、医療、介護の支援を担ってきているので、地域との距離感は近く、自然災害の際の避難受入れに手を挙げたり、AEDの設置法人として地域に周知を図っている。また、地域にあるお店で食品等を購入することにこだわり、地域とのつながりの1つとしている。この他、気候の良い時は入居者様とスタッフ一緒にハナレイ周辺を散歩することがあり、通りすがりの住民や学生と挨拶を交わしたり会話しながらちょっとした交流を続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以前は中高生に職場体験の場として訪問していただいていた。今年は10月に中学生の職場体験実習を予定している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年4月までは書面での会議で意見や質問をうかがっていた。今年度より委員も替われ6月より対面での開始となり、サービスの向上に生かせるよう努めて行きたい。	新型コロナウイルス感染拡大の時期は書面回覧式で実施していたが、今年度に入ってからでは集合型で実施できるようになったとのこと。やはり集合型の方が意見は出やすく広がりやすいとのことであった。最近、地域の情報としてハナレイ周辺の高齢者世帯は独居の方が増えたことや、地域の方が入院した際のきっかけ等を教えてくれたため、予防的に何ができるか意見交換に繋がったとのことである。今後、集合型の会議を持続的に実施していく中で、画一的になりがちのため、ヒヤリハットレポートの内容を紹介したり、認知症の中核症状や周辺症状をわかりやすく説明する等、会話のネタになることや、グループホームの強みを活かした知識の提供等行うことを期待する。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	諸々の変更や認定調査、運営推進会議の出席の参加など協力をいただいている	佐世保市との定期的な関わりとして入居者様の認定調査や運営推進会議への参加が挙げられる。この他にも市主催の集団指導に参加したり、地域包括支援センターから入居の相談があったりと、色々なところでつながりがある。制度のことや報酬に係ること等、分からないことがあったらすぐに尋ねて対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全を守るため、夜間にエレベーターの施錠を行っているが、その旨ご家族には説明をしている。施設内研修でもこの内容について確認をしている	身体拘束及び高齢者虐待防止について、身体拘束適正化委員会を毎月開催して実態の把握と注意喚起事項について法人全体で共有している。また、身体拘束や高齢者虐待に係る研修を2カ月に1回開催して正しい知識の習得や事例を確認して類似した行為がなされていないか検証できる内容となっている。組織的に定例的な取組みは定着しているようなので、次のレベルアップ取組みとして、例えば心理的虐待のうち、スタッフそれぞれがどこから該当すると考えるかを検証して、お互いの価値基準を擦り合わせることも視野に入れることを期待する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて虐待防止について確認をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などで学ぶ機会はあるが活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定の際は、説明と同意を得ている。契約時は、説明と疑問点を聞き納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは、面会や電話連絡時にしっかりとコミュニケーションとるようにしている。ご意見箱の設置をしている。入居者様とは、日々の生活の中で要望をくみ取れるよう努めている。	法人の方針として新型コロナウイルス感染拡大の時期でも場所や時間に留意しながら面会の機会を設けていたため、ご家族様との接点については持続的に確保できていた。ご家族様から運営に関する要望はなかなか聞かれなかったが、入居者様の件で、切りにくい爪はどうしたらいいか、また、定期的にご自宅に戻っている入居者様について、自宅で入浴させても大丈夫か等の意見に丁寧に応えた事例を確認した。逆にハナレイからご家族様に対して、ある入居者様の体調が十分でない状況を説明して、ゼリーを買ってきてもらい、体調が戻るまで補助的に食べてもらった一例を確認した。このように一方だけではなく、双方がお互いに入居者様支援に協力し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から業務の相談をしている。毎月行うカンファレンスにて意見を出し合い、課題の解決ができるようにしている。	スタッフがホーム長や管理者と話し合う場として、ユニット別に開催しているカンファレンスの機会があり、主に入居者様の支援に関することを協議する場で、ヒアリングの中で運営に関する意見の反映を確認することができなかった。また、今のところ、個人面談の機会はなく、改めて管理的立場のスタッフと実務的スタッフが話し合いをすることはない様子である。日常の業務の場面でちょっと話をしたりすることで事足りているようであった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ有給や希望の労働時間に沿えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりに合った研修を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し会合の参加や、運営推進会議時の他施設などの交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人やご家族の要望や困った事を聞き、出来る限り沿えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族さまからの話にしっかりと耳を傾け、こちらからも現状報告を行い関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	内科以外の受信や、歯科の往診・マッサージの施術などご家族と相談しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な方には、食器拭きを依頼し手伝っていただいている。本人様の洗濯物やたためない方もたたんで頂いている。できる事できない事を見極め支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話連絡時には、日ごろの様子をお伝えしている。又質問にもお答えしている。更にご家族に依頼できる事は依頼して共に支援していこうと努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍においても、面会を完全に止める事はせず、短時間での工夫をした。現在は県外の方も面会に来られている。	新型コロナウイルス感染拡大の時期はこの項目の支援は厳しい一面があったようであるが、現在は教会の方が見えてお祈りをささげたり、ハナレイの1階にある介護事業所の利用者が顔見せに来たりと、身近なところで関係継続の関わりがなされている。今後は一番身近と考えられるご家族様との関係継続の支援が今以上にできるよう、イベント等を開催したりして、ハナレイに足を運んでもらう機会を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する事なく誰もが楽しく快適に過ごせるように見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があれば丁寧に応じるようにしている。又ご家族と施設外でお会いした時には、その後の様子等伺う事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしや会話の中で、把握できるよう努めている。職員の力だけでは難しい時は、ご家族に相談している。残存機能を低下させないように支援している。	入居してすぐは、資料に記載されていないことや、現状と異なることがあるため、介護記録を特に細かく記載して、次のスタッフに引き継ぎ、特に気になることは口頭で引き継ぐようにしている。また、入所後に気付いたことはご家族様にお尋ねして、入居者様が不自由を感じないように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族に尋ねたりしている。他の施設から来られた際は、情報提供書に目を通している。レクリエーションの中で生活歴を知る事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペース・状態を見極め対応している。普段と違うところがないか観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より相談し、毎月行うカンファレンスでも意見やアイデアを出して必要な事は取り入れている。	入居前に可能であればご家族様に来所してもらい、希望を聞いたり、今の状況をお尋ねしたりしているが、別々に生活をしていることで、最近の様子が分からないご家族様もいたため、事前のアセスメントでは把握できないことを、ハナレイでの生活に慣れた様子を見ながら、入居者様の実情に沿ったケアプランを作成している。また、かかりつけ医から診察のときに検査値をみて、水分量や栄養についてアドバイスがあれば取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を詳しく記入するように努力している。その記録にはすべて目を通してしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の支援やご家族様が遠方におられる方他科受診の付き添いなど行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニや衣料店の買い物、毎月の訪問美容、週2回のマッサージの利用をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけの確認を行っていて、ほとんどの方が同法人の内科を受診されている。必要に応じ他科受診されたり、歯科の往診も受けられている。	入居者様やご家族様の希望で、ほとんどの方が入居時にかかりつけ医を同法人の内科に変更されている。かかりつけ医受診の際は、施設の看護師が同行している。他科受診の際は、ご家族様が付き添いをする事になっているが、初診時は状況が分からないことがあるため、ホーム長や看護師が付き添うか、手紙で状況を伝えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の気づきを報告し、指示を仰いでいる。又気になる症状を伝え相談する事で、受診の必要性などを判断してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	24時間後方支援の病院があり、必要時は電話で相談などしている。コロナ禍前は面会に行き状態の確認と情報を得ていた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、希望を聞いて重度化・終末期の説明と同意を頂いている。看取りの研修を検討したい。	入居時に同意書をもっているが、終末期が近くなると改めて同意書をもろうようにしている。終末期が近付いてきたら、それぞれ状況が異なるので、対象の人に合わせた対応をその都度話し合うようにしている。また、注意点や気を付けることを具体的にスタッフに伝えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルをいつでも確認できるようにしている。急変時には、スタッフ間では話し合い連携をとるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に災害も含めたに避難訓練を実地している。調理はガスではなくIHを利用している。	業務マニュアルの一部に防災マニュアルが入っており、業務マニュアルをスタッフが見やすい場所に置いており、必要に応じて確認できるようになっている。シーツ交換時にはベッドサイドのコンセントの断線や埃がたまっていないか確認し、日々の防火に気を付けている。災害時には、地域の方の避難場所として提供することになっており、非常時にも地域と助け合えるよう日頃から交流している。	次への改善につなげるために、地震や水害等の災害の訓練の検証を残しておくことが望ましい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を踏まえ、相手の方が心地よい、楽しいと感じられる様な言葉かけや対応を考え関わっている。訪室時のノック、排泄時にはドアを閉めるなど気をつけている。	親しみを持ちつつ、慣れ慣れしすぎず、入居者様の人格を尊重した対応を心がけている。週に一度の法人全体の朝礼で、言葉かけを丁寧に、ということをスタッフには伝えている。入居者様本人はもちろん、ご家族様との関わりにおいて、好ましくない対応やご意見が出てきた場合は、該当スタッフにすぐに注意するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いしない様心がけている。表情を観察し、その時々合った支援をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の気持ちを大切に声掛けを行っている。一人ひとりあるいは、その日の体調に合わせて柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用されている方には、希望によりパーマやカラーの施術を受けられている方もおられる。着衣の乱れを整えたり髪をとかす等手伝っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いとして、食器拭きを依頼する時がある。又お菓子づくりを共に行うこともある。食事は多彩なメニューを提供している。	食事は、昼食は食事を作るスタッフが決まっているが、朝食夕食はスタッフが交代で作っている。メニューも担当のスタッフが自分で作るものと考えている。毎月1日は赤飯と決めているが、入居者様も覚えてくれており、楽しみにしてもらっている。ひな祭りや誕生日など、季節に応じたメニューも取り入れ、食事を楽しめる工夫をしている。また、かかりつけ医のアドバイスを、個々に合わせた栄養もとれるよう対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態を工夫したり、使いやすい食器にて料理を提供したりしている。体調や体重の増減に応じて量を変える事もある。適量を摂取出来るよう飲水の促しも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じて、声掛けのみではなく手を貸し介助することもある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をつけ、パターンをつかめるよう努めている。失禁などを防ぎ快適な排泄行為が行えるよう声かけ・誘導をしている。更に一人ひとりに合ったパットを使用している。	排泄チェック表に基づいて、おおよそ2時間おきにトイレに誘導している。入居者様に合わせて、夜間も1～2回トイレに誘導している。トイレに行くこと自体が訓練であり、自立度を維持することにつながると考え、できるだけトイレに誘導するようにしている。尿意を訴えられなくてもトイレに行きたいときの動作を把握しており、適切なタイミングでトイレに誘導できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人に合った排便調整方法(薬の種類・検討など)を考え、水分の摂取や運動に取り組めるよう促している。毎朝、牛乳や乳酸菌飲料の提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時の希望には沿えていない。しかし楽しく入浴していただく為の工夫(訴えの傾聴・入浴剤の使用など)は行っている。	週に2回入浴することになっており、大まかに入浴日は決まっているが、入居者様の様子を見ながら、臨機応変に対応している。異性介助については、入居者様の希望があれば対応している。入浴時に入居者様はリラックスしてたくさん話をしてくれるので、普段できない話をする良い機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて必要に合わせて休息をとって頂いている。昼寝を促している。夜の入床時間は一人ひとり異なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に薬の変更があった後は、より注意深く様子を観察し、気づいた事は随時ナースに報告している。誤薬のないよう確認を重ねて、内服の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いの依頼をしたり施設周辺の散歩に誘ったりしている。ご家族様からお菓子・ジュース等をお預かりし、個室で過ごされる時などお渡ししている。毎日のレクリエーションでも内容を変えて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の気持ちを大切に声掛けを行っている。一人ひとりあるいは、その日の体調に合わせて柔軟に対応している。	外に出たいという入居者様の希望があれば、短時間でも周辺の散歩に出るようにしている。花がきれいな時期には少し遠くに見に行ったり、月に1度は外食をするようにしており、夏場は食事のメニューには入れることが難しいお刺身など、入居者様に楽しんでもらっている。各階のレクリエーション係が夏祭りやクリスマス会を企画しており、外食などの外出の際は起案書を作成し、車の配車まで事前に決めて、当日スムーズに動けるように工夫している。外出後は振り返りをして、次の計画に生かし、入居者様が楽しく外出できるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様とのコミュニケーションをとったうえで本人様の安心のために財布を持たれていることはある。欲しいものがある時は、ご家族に協力していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の電話を取り継いだり、書かれたハガキをお預かりし投函する事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓に花を飾ったり、壁に手作りの飾りつけを行っている。温度・湿度の管理をしている。	朝から掃き掃除、昼食後に拭き掃除を行い、入居者様は昼間はほとんどリビングにいるため、明るく清潔な空間を心がけている。コルクボードに毎月テーマを決めて飾りつけをしており、テーブルにはスタッフが家で育てている花や買ってきた花を欠かさないようにしており、ベランダには朝顔やミニトマトを育てるなど、季節を感じながら生活できるようにしている。廊下には外出時の写真を貼って、入居者様が外出のことを思い出したりご家族様が面会に来たときに見ることができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所者のペースに合わせて個室にて過ごして頂くこともある。リビングでは座る位置を工夫し、皆さんが楽しく過ごしてもらえるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の持ち込みなどして頂いている。ご家族の写真や人形を飾ったり、これまで使用されていた身の回りの品をおかれている。	危険を伴わないものであれば、基本的に部屋への持ち込みは自由である。家具の配置は、導線を塞ぐことがなければ入居者様の希望に沿えるようにしている。布団を使っている習慣から、ベッドの上に立ってしまう入居者様については、怪我の防止のためにマットレスを床に置くことで入居者様の安全を第一に対応を考えている。入居者様のぬりえやカレンダー、外出時の写真を飾るなどして、居心地よく過ごせるお手伝いをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の場所を分りやすく表示している。必要だと思われる方には、居室のドアにお名前を表示している。常に入所者様が見える位置にスタッフがいるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202387		
法人名	医療法人 愛和会		
事業所名	ハナレイ倶楽部 グループホーム 2階		
所在地	佐世保市城山町3番21号		
自己評価作成日	令和5年6月18日	外部評価結果確定日	令和5年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyo_detail_022_kihon=true&JigyouCd=4270202387-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和5年8月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は、全スタッフが自ら献立・調理を行い提供しています。大体の入居者の方が完食され、美味しかったと言われる方もいます。毎日1回は運動の機会を提供し、廊下歩行やバイク漕ぎなど行っていたき、筋力の維持などにも努めています。また、毎日のバイタル測定や看護職員の対応にて、体調の変化や症状の把握に努め、ご本人・ご家族に安心頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り後に理念を唱和し実践につなげるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や外食レク等地域の店を利用し、天気の良い日は周辺を散歩に出かけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学・高校の職場体験を受け入れている。 10月に市内の中学生の受け入れを予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の利用状況や、行事の報告書など情報を提供している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、諸通知や手続き等協力を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回の勉強会に於いて知識の向上を図り、スタッフ同士で意識し注意し合い積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて、知識の向上を図り、日常的にスタッフ同士で協力するよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、利用されてた方がおられた。自ら調べたり、勉強会などの機会学べるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や、入居前などに説明を行い理解・納得していただける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、コミュニケーションをできるだけ取り、要望や意見を伺い出来る事は対応するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のカンファレンスで意見・提案等話し合い、業務に生かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室が別の階に確保されて、ゆとりを持って働かれる様にされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回内部の勉強会を開き、外部の研修にも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や連絡協議会等で、他施設の方々と交流・情報交換しサービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを多く取り安心してもらえる様取り組み、不安や要望等も話していただける様関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話の対応時に現状報告を行い、又不安や要望に対しても安心していただける様務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に、ご本人とご家族様の要望を聞き、支援内容や必要なサービスの利用ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペースに合わせ洗濯物たたみや台拭き等、できる事を一緒に行い関係を築ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ現状報告を行い、問題点等一緒に考え支えていける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも訪ねて来ていただける様、環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様声掛けや席の配置を工夫し、入居者同士でコミュニケーションが取りやすくなるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や問い合わせ等あれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らし方や希望等把握できる様ご本人やご家族に話を聞き、少しでも希望に沿った暮らしが出来るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人やご家族への聞き取りや、サマリー・ご本人との会話などから把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を見逃さない様、記録や申し送りなどで情報の共有を図り把握できる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望や意見、カンファレンスなどで話し合い計画に取り入れ作成されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやカンファレンスで情報を共有し、計画に生かせる様記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向、ご本人の状態に合わせた支援が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様に希望を聞き、外出レクで地域の店を利用したりして楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望によりかかりつけ医を選択してもらい、必要な情報共有を行い支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師に、申し送りやその都度報告し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、病院によっては面会がまだできなく、電話などで情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	後方支援病院へ登録し急変や重症化時に協力を得ている。又ご本人やご家族と話し合い希望に沿える様努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応マニュアルは分かりやすいところに置いてあり、目を通す様にしている。又勉強会で訓練などしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時マニュアルに目を通すようにしている。又避難訓練や消火訓練を行い対応できる様訓練している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時ノックをしたり、排泄の介助時等気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々コミュニケーションを取り、外食時などメニューを見てもらい何が食べたいか聞いたりして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、体調や気分配慮し、本人の希望に沿った支援ができる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や希望の食材を使い、嫌いな物は別にしたり等工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックや、体調などに合わせ形態を変更している。水分も食事以外にも摂取できる様取り決め実行している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い支援している。週に1回義歯の洗浄を行い、定期的に歯科の往診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導や声掛けを行い、排泄チェック表を使いその人に合わせた誘導が出来るよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状態を確認し、毎朝の牛乳や水分補給・運動等で改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、本人の状態に合わせ時間をずらしたり、次の日に変更したり等対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態により日中でも居室にて臥床していただいたり、夜間はパジャマ更衣の支援を行い安眠につながる様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を確認し変更があれば申し送り時情報共有し、変更後の状態の変化等記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ等できる事を手伝って頂き、気分転換できる様外出や外食等支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があり、天候や状態が良い時に散歩に出かけたり、ご家族にも協力をお願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には自分で管理していたっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話希望時は対応している。 又家族や知人からの手紙は渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度・湿度管理や月に1回飾りつけを替えたりテーブルに花を活ける等し、季節感を感じられる様努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでは好きな所に座って頂き、利用者同士で話ができる様にしており、ソファの配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物や写真等持ち込まれており、配置等ご本人やご家族の希望に沿える様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で移動しやすい様ルートや安全に配慮し、トイレ・廊下・浴室に手摺りを配置し、安全に利用できる様工夫している。		